

■第4回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会の振り返り

1 歴史的資産としての貞山運河の利活用について

〔利活用における全般的視点〕

震災前後の状況を認識することで、復興の度合いがよく伝わるのでは
若い世代の人達と一緒に活動することで次の世代にもつなげていく
歴史的背景を踏まえて震災のことを伝え、学ぶ
時間をかけて形成し、成長していくというビジョンをコンセプトワークの段階から盛り込んでおく
ハードだけではなく、市民の知恵等ソフトの部分もうまく組み合わせていく
後世に伝えていく術をきちんとつないでいく
メモリアルは、誰のために、何を伝えていくのかという部分が大きな課題

〔具体的な提案／ハード面〕

憩いの場所となるような飲食店を周辺に配置して欲しい
津波が来たことが分かる目印の様なものを組み込んで後世の人達に伝えていくことができればいい
避難施設を整備する際には、背景となる仙台平野を考慮したデザインの提案にしてほしい

〔具体的な提案／ソフト面〕

スポーツ・レジャー、記憶の継承、美しい景観、豊かな環境という4つの項目をつなぐことができる3.11ツアーの様なものを開催
運河と震災の両方を歩きながらガイドしてくれる人がいるといい
利活用は完成する前から始められる、今出来ることの情報提供も必要（例えば、工事の様子を見学できる安全な場所等）

〔その他〕

アプローチ道路や既存市街地との接続等、周辺道路の検討が必要
後に被害状況を俯瞰して見る事が出来る様に、仙台市や宮城県で定期的に航空写真を撮り続けて欲しい

2 今後の3.11のあり方・過ごし方について

〔全体的な視点〕

人生における価値等について今後にかかしていくことがとても大切

人口減少が相当進んでいる日本では、3.11を将来を見つめ直していくターニングポイントにすべき
色々な表現のもの（イベント等）を受け入れ続けられることが必要

冥福を祈る意味をもつ仙台七夕と3.11の祈りを結びつけられれば

3年目だからできる、心を少し切り替えられるような、いまさら感と出遅れ感を解消できる様なものがあるといい

3.11を東北全体として振り返っていけるものが必要

未知なる方向へ向けて、鎮魂や祈り、感謝を込めて沢山やれるものはある

震災の経験を受けて外へ向けた働きかけを継承していくことで大きな力になる

〔具体的な提案／休日〕

3月11日を見つめ直し、決して忘れない様にしていくため、休日にしてはどうか

長く忘れないでいる仕掛けを作るには、休日にするのが一つの有効な方法

〔具体的な提案／式典、催し〕

フォーマルな追悼式をやり続ける

多くの犠牲者を出した津波被害を考えると、海と共に暮らしていることの意識付けが必要となる、
式典にも自然という観点が必要

3.11を防災・減災の日にして防災関連の催しする

防災訓練をやる機会にする

〔具体的な提案／その他〕

3.11のあり方を世界に発信していくために、仙台市で宣言やメモリアルメッセージを検討しては

〔情報発信〕

継続的に行っていくためには、イベント等が一覧でき情報発信していくことが必要（ウェブサイト、冊子等）

復興住宅の住民活動に関する情報発信

学会やNPOによるシンポジウムの内容が一覧でき、活動の状況が分るものが必要

仙台とそれ以外の地域の連携、それを可能にする情報発信（震災CARES）

〔仕組み〕

市民の人達が忘れないで長く大切に思うという気持ちを続ける仕組みをつくる

復興住宅の住民への活動助成

辛い経験を生かした地域を超えた長期的な支え合いがよい仕組みになる、それを生み出していけたら
末長く行っていくイベントにはしっかりした仕掛け、仕組みを生み出していく

市民、企業、行政の連携による他地域への支援の仕組みづくり

〔その他〕

自分の震災経験を語る、あるいは聞くことができる拠点が必要